

科目名： 環境論入門		科目コード	AA75
科目主査： 勝田 悟		担当講師： 勝田 悟、金澤 義人、木船 康德、志田 崇、高山 清次、野田 英樹	
		単位	2
		配当年次	1
授業の目的と概要		グループワーク： ☐ あり ☒ なし 個人ワーク： ☐ あり ☒ なし	
「環境学」は、学術分野として、まだ新しい分野です。現在では、「予防」の観点を取り入れることが積極的に行われており、地球温暖化原因物質の排出権取引や環境商品の開発が経営戦略の中に取り込まれています。すなわち環境戦略は企業経営において極めて重要性を増し、その取り組みは、非財務情報として企業評価の対象となっています。本科目では、環境分野の基礎的な「知識（理論）」と社会的な動向を組み合わせ学習を進めていきます。			
履修の前提となる科目	☐ あり ☒ なし	科目名：	
履修の前提となる知識 その他特記事項	事前にテキストを熟読し、わからない点や自信のない点があったら、チェックしておきましょう。		
テキスト	『環境学の基本』勝田 悟, 産業能率大学出版部, 最新版		
この科目の到達目標	①環境問題の体系を理解し、その解決のためにはどのような行動が求められているかを概ね説明できる。 ②国内外で行われている環境問題対策について、実際の動向を理論的に考察することができる。 ③環境保全を視点とした企業戦略を立案することができる。		
成績評価の方法	「授業に取り組む姿勢」として講義途中で理解確認のための試験またはレポートを行います。講義への積極的な姿勢は加点の対象とし、遅刻、居眠りなど、消極的な姿勢は減点の対象とします。「最終試験」は、記述式の問いを、講義の内容の全般的な部分から出題します。 ※スクーリング全日の出席、課題、最終試験の提出（白紙提出不可）をもって、採点対象とする。		
事後学習	・新聞、ニュースなどで報じられる環境問題について自分なりに考えてみること。 ・身近な環境問題について分析・改善策検討を実施してみること。 ・本学習を踏まえて職場や地域活動（生活）などで、企画・提案などを考えてみること。		
事後学習の参考文献	『気候変動の観測・予測及び影響評価統合レポート2018 ～日本の気候変動とその影響～』環境省等, 2018年 『環境概論 第二版』勝田 悟, 中央経済社, 2017年 『環境保護制度の基礎 第4版』勝田 悟, 法律文化社, 2020年		
スクーリング受講時に用意するもの ☒ テキスト ☒ 筆記用具 ☒ カメラ・マイクは必須となります。			